

平成 29 年度 自己点検自己評価結果

1. 学校の教育目標

方針:質の高い教育の維持・向上をめざす。

【目標】

- (1) 学生の看護実践力の向上を図る。
 - ・ 臨地実習指導の指導力の充実(臨床との連携、指導者の学内演習参加の働きかけ等)
 - ・ 技術到達度を明確にする
 - ・ カリキュラム評価の実施(授業評価の継続、卒業時評価の継続)(卒業時評価 3.1 以上)
 - ・ 授業評価のフィードバックの工夫
 - ・ 1 年次からの看護観の育成
 - ・ 教育内容・学習進捗の見直し
- (2) 学生の社会性の育成を目指した指導の充実を図る。(学習支援)
 - ・ 成人学習者としての社会人基礎力を身につける、伸ばす
 - ・ 学生活動全般における支援
(自治会、教科外活動、学生生活において自ら考え行動できる)
 - ・ 学生の人権を尊重した支援
- (3) 質の高い学生を確保する。
 - ・ 学生募集活動:高校訪問、業者主催説明会への参加、在学生の卒業校への訪問等
 - ・ ホームページ・広報活動の充実
 - ・ 推薦指定校の見直し
- (4) 国家試験合格率 100%をめざす。
 - ・ マニュアルに基づき、1 年次からの計画的な国家試験対策の実施
 - ・ 学生個々に応じた学習支援(チューター制)
 - ・ 補習講義の実施
- (5) 当院及び機構病院への就職を推進する。
 - ・ 当院への就職率 60%
 - ・ 機構病院への就職率 85%以上
 - ・ 機構病院と連携し、インターンシップ参加を呼びかける
 - ・ 先輩看護師との交流会の実施
 - ・ 進路相談
 - ・ 卒業後の学生への相談窓口の確保(里帰り企画)
- (6) 学習環境の整備
 - ・ ビデオ教材・図書の有効利用
 - ・ 教材の点検・整備・補充
 - ・ 施設設備の改善(1・2 年生教室の机・椅子の更新)
- (7) 教員の質の向上を図る。

- ・ 学会発表
- ・ 研修会・臨床研修への参加・伝達
- ・ 研究授業の実施・参加

(8) 働きやすい環境づくり

- ・ 年次休暇の計画的取得(月 1 回、年 10 日)
- ・ 時間外勤務の削減(19 時まで。ノー残業ダイの確保)
- ・ 教員間の意思疎通を図る
- ・ 情報の一元化・共有ファイルの整理・管理

2. 自己点検・自己評価

評価カテゴリー	評価内容の概要	自己評価
I. 教育理念・目標 (小項目 5 項目)	理念・目的・育成人像が定められているか、学校における職業教育の特色、将来構想が明確になっているか、学生・保護者へ周知されているか等	3.0
II. 学校運営 (小項目 8 項目)	目的・事業計画に沿った策定、運営組織や意思決定機能が明確か、人事・給与に関する制度の整備、 教務・財務の組織整備、コンプライアンス体制の整備、情報公開等	3.5
III. 教育活動 (小項目 16 項目)	教育課程の編成・実施方針等の策定、修業年限に応じた教育到達レベルや学習時間の確保、カリキュラムや教育方法の工夫・開発、関連分野企業や業界団体との連携によるカリキュラムの策定、カリキュラム評価体制、指導体制、教員の確保等	3.3
IV. 学修成果 (小項目 5 項目)	就職率向上、退学率の低減、卒業生・在校生の社会的活躍、卒後のキャリア形成等	3.6
V. 学生支援 (小項目 10 項目)	進学・就職への支援、学生相談体制、学生への経済的支援体制、健康管理・生活環境支援、課外活動への整備、卒業生への支援体制等	4.0
VI. 教育環境 (小項目 3 項目)	施設・設備の整備、学内外での教育体制整備、防災体制等	3.0
VII. 学生の受け入れ募集 (小項目 3 項目)	学生募集活動の適正性、募集活動における教育成果、学納金の妥当性	4.0
VIII. 財務 (小項目 4 項目)	中長期的な財政基盤の安定性、予算・収支計画の有効性と妥当性、会計監査の適正、財務情報化公開の体制整備	3.2
IX. 法令等の遵守	法令・専修学校設置基準の等の遵守と適正な運	3.2

(小項目 5 項目)	営、個人情報保護の対策、自己評価の実施と問題点の改善、自己評価結果の公開等	
X. 社会貢献・地域貢献 (小項目 3 項目)	学校の教育資源・施設を活用した社会貢献・地域貢献、学生のボランティア活動、地域に対する公開講座や教育訓練の実施	3.0
XI. 国際交流 (小項目 4 項目)	留学生の受け入れ・派遣についての戦略・適切な手続き・体制等(必要に応じて)	1.0

3. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 国家試験合格率 100%をめざす。

- ・ 国家試験対策マニュアルに基づき各学年国家試験対策を実施。1・2学年は、学生の国家試験対策委員と担任が相談し実施している。年度末に業者模試を実施。
- ・ 3年生は、国家試験業者模試を6回実施。また、過去の模擬試験、過去問題、小テストを実施。
- ・ 教員による補習講義を1月に実施。
- ・ 業者の国家試験対策セミナーへの参加を呼びかけ、全員の学生が参加した。
- ・ 実習時に関連領域の国家試験問題を実施した。
- ・ 成績低迷者への学習強化を1月より実施。また、随時個別面接を行い学習面、精神面の支援を実施した。
- ・ 卒業生からの国家試験に向けての学習方法のアドバイスの機会を設けた。

(2) 質の高い学生を確保する。

- ・ 母体病院、まつもと医療センターの看護部長の協力を得て、推薦指定校 12 校の高校訪問を実施した。また、推薦指定校 10 校に訪問をした。
- ・ 募集要項を県内 99 校、県外 33 校に発送。また、県外の近隣の高校に電話で募集依頼をした。
- ・ 学校説明会を4回実施、118名(昨年119名)の参加があった。教員による模擬授業、学生との交流、国家試験合格率 100%が応募に繋がっている。
- ・ 業者主催の学校説明会に参加、82名の参加があった。
- ・ 平成30年度推薦入学試験応募者数は18名(昨年13名)、一般入学試験の応募者数は82名(昨年78名)であった。

(3) 当院及び機構病院への就職を推進する。

- ・ 1・2年生対象に当院・県内・甲府の機構病院の説明会を7月に実施、また病院インターンシップ参加への呼びかけを行った。
- ・ 当院への就職率 58.1%(昨年 47.2%)、機構病院 86%(昨年 83.3%)、県内就職率 83.7%(昨年 72.2%)であった。
- ・ 卒業後の学生への相談窓口(就業継続支援)として、里帰り企画を実施。今年の卒業生

に呼びかけ7月に実施12名の参加があった。

- (4) 学生の社会性の育成を目指した指導の充実を図る。
- ・ 社会人基礎力の育成を目指し、学生の基礎学力の向上、人間性を養う、感性を養う、行動力を養うことを主な目的として、自主参加でテーマ別の教科外活動を実施した。昨年に続き2回目となる。今年度は、7テーマで69名の学生が参加をした。2年生の参加が少なかった。54名の学生は自己学習であった。

4. 総合評価

- (1) 当校の応募者数は昨年とほぼ同様であったが、年々減少傾向にある。平成31年度は北信地域に2校の看護大学が増設される。学生の大学志向もあり応募者数は更に減少する可能性がある。当校の応募者は、HPや高校の先生からの情報で応募に繋がっている。魅力あるHP、高校の先生へのPRが重要と思われる。また、学校説明会での在校生の交流、模擬授業も好評であり継続していきたい。さらに、国家試験100%も応募者を引きつけるポイントになっているため100%合格は維持したい。
- (2) 学生の社会人基礎力の育成に向けて、2年間自主的参加でテーマ別の教科外活動を実施してきたが、学年によって参加数やニーズも違うこと、3学年合同の時間確保が難しいことなどから今後も継続するか検討が必要である。
- (3) 学生の看護実践力を高める学習として、臨床看護技術演習にオスキーを取り入れた。臨床の指導者に患者役となってもらった。学生にとっては状況に応じたその場の対応が必要となり普段マニュアルのように行動している欠点もみえた。また、指導者にとっても学生のレディネスの把握ができ今後の実習指導や卒後の新人教育にいかせるとの意見が聞かれた。看護技術到達度の見直しを行い、到達度を明確にした。今後は卒業時に確実に身につける技術の検討が必要である。前年度から課題となっている自己点検・自己評価の公表、履修規定の見直しは実施できるようにしたい。